

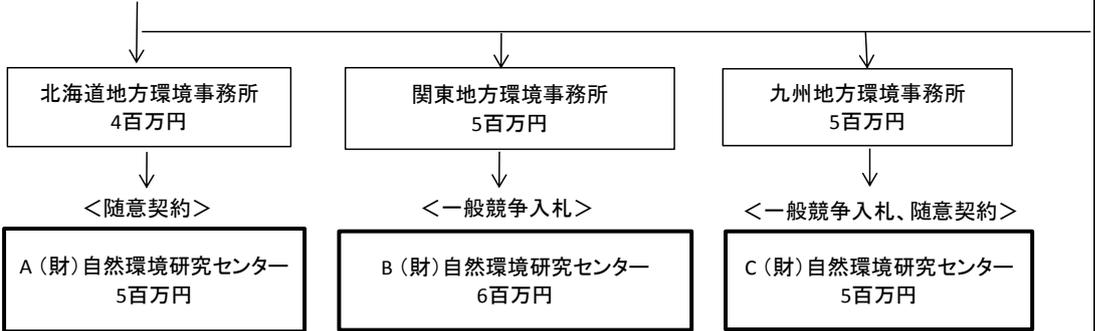
平成24年行政事業レビューシート (環境省)

<b>事業名</b>	野生生物専門家活用事業		<b>担当部局庁</b>	自然環境局		<b>作成責任者</b>		
<b>事業開始・終了(予定)年度</b>	平成19年度		<b>担当課室</b>	野生生物課		課長 亀澤 玲治		
<b>会計区分</b>	一般会計		<b>施策名</b>	5-3 野生生物の保護管理				
<b>根拠法令 (具体的な条項も記載)</b>	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律(第46条)		<b>関係する計画、通知等</b>	保護増殖事業計画				
<b>事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)</b>	学位・経験を有する専門家を雇用し、生息域や飼育下での保護増殖事業、テレメトリーや観測衛星による生息状況調査、野生生物の保護活動の技術的指導等に従事させることなどにより、地方環境事務所の体制強化が図られ、国内希少野生動植物の保護施策を効果的・効率的に展開する。							
<b>事業概要 (5行程度以内。別添可)</b>	保護増殖事業、生息状況調査等を促進する必要性が特に高い地区に野生生物専門家を環境省が雇用し、生息状況調査等を実施。							
<b>実施方法</b>	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 委託・請負 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 交付 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
<b>予算額・執行額 (単位:百万円)</b>	予算の状況	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求		
		当初予算	31	30	30	30	36	
		補正予算	0	0	0	0		
		繰越し等	0	0	0	0		
	計	31	30	30	30	36		
	執行額	31	37	33				
執行率(%)	100%	123%	110%					
<b>成果目標及び成果実績 (アウトカム)</b>	成果指標			単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (24年度)
	本事業費は、専門家を雇用した生息状況調査等であり、定量的な成果目標を設定することは困難である。		成果実績	—	—	—	—	—
<b>活動指標及び活動実績 (アウトプット)</b>	活動指標			単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	6箇所の野生生物保護センターで、6人の専門家を雇用		活動実績 (当初見込み)	人	7 —	7 —	6 —	— (7)
<b>単位当たりコスト</b>	5,494,521 (円/人)		算出根拠	「単位当たりコスト」＝「事業に係る経費(33百万)」/「雇用人数(6人)」				
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	環境保全調査費	30	36					
	計	30	36					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	野生生物は、人間の生存する基盤を整え、有用な資源としても活用されるなど、生きるために欠くことのできない存在であり、特に我が国において絶滅の危機に瀕している種は、国がその保全に取り組む必要がある。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。	
	—	不用率が大い場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・使途	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	支出先の選定については、可能な限り一般競争により適切に実施している。経費の大部分は専門家雇用の人件費であり、通年で活用していることを考慮すれば、金額水準は妥当であり、絶滅回避という目的を達成するために必要な経費である。
	○	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	専門家を直接雇用することにより、継続的に現地で保全を実施することが可能となり、職員の専門的な知識を補う効果もあることから、一時的な業務を行うより実効性は高い。 専門家によって得られた情報は、生息状況の把握や保全の効果の検証など活用され、あるいは傷病個体の治療は直接的な個体数の回復に繋がるなど、その成果は極めて大きい。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	—	※類似事業名とその所管部局・府省名	
○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		
点検結果	野生生物の保護増殖を実施するためには生態等に関する専門的な知識と、行政判断が必要となり、事業の実施に当たっては職員の専門的な知識を補う上で、必要な経費である。今後とも野生生物専門家を有効に活用し、効果的・効率的な保護増殖事業を展開する。		
予算監視・効率化チームの所見			
現状通り	引き続き効果的・効率的な事業実施に努めること。		
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)			
現状通り	—		
補記 (過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			
関連する過去のレビューシートの事業番号			
平成22年行政事業レビュー	318	平成23年行政事業レビュー	201

環境省  
33百万円

野生生物専門家活用事業  
【内容】  
保護増殖事業、生息状況調査等を促進する必要性が特に高い地区に野生生物  
専門家を配置し生息状況調査等を実施。



那覇自然環境事務所  
15百万円

＜一般競争入札＞  
D(財)自然環境研究センター  
17百万円

資金の流れ  
(資金の受け  
取り先が何を  
行っているか  
について補足  
する) (単  
位: 百万円)

費目・使途  
 (「資金の流れ」  
 においてブロックごとに最大の  
 金額が支出されている者につい  
 て記載する。費目と使途の双方  
 で実情が分かる  
 ように記載)

A.(財)自然環境研究センター			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	派遣業務	5.3			
計		5.3	計		0
B.(財)自然環境研究センター			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	派遣業務	5.7			
計		5.7	計		0
C.(財)自然環境研究センター			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	派遣業務	4.9			
計		4.9	計		0
D.(財)自然環境研究センター			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
雑役務費	派遣業務	6.1			
計		6.1	計		0

## 支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)自然環境研究センター	希少野生動植物の生息状況調査等	5.3	随意契約	-

B.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)自然環境研究センター	希少野生動植物の生息状況調査等	5.7	1	92.9

C.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)自然環境研究センター	野生生物の専門家を対馬野生生物保護センターに配置し、ツシマヤマネコの保護等に従事させる。	4.9	1	94.8
1	(有)ライノ	ツシマヤマネコ輸送	0.2	随意契約(少額)	-
1	特定非営利活動法人どうぶつたちの病院	ツシマヤマネコ診療	0.1	随意契約(少額)	-
1	(株)朝日酸素商会	医療酸素ガスの購入	0.01	随意契約(少額)	-
1	対州海運(株)	酸素ボンベの購入	0.004	随意契約(少額)	-
1	対州海運(株)	酸素ボンベの購入	0.002	随意契約(少額)	-

D.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(財)自然環境研究センター	やんばるにおける生態学などの専門的知識と経験を有する野生生物専門家を雇用	6.1	1	83.1
1	(財)自然環境研究センター	奄美諸島における生態学などの専門的知識と経験を有する野生生物専門家を雇用	5.6	1	98.5
1	(財)自然環境研究センター	西表島における生態学などの専門的知識と経験を有する野生生物専門家を雇用	5.0	1	98.5